

101-164

問題文

β -ラクタム系抗菌薬の耐性発現及び副作用に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. β -ラクタム環を開裂するセファロスポリナーゼを産生する細菌は、セファレキシンに対する耐性を示す。
2. スルバクタムは、緑膿菌に対して強い抗菌活性を示すが、セファロスポリナーゼによって容易に分解される。
3. セフォタキシムは、セファロスポリナーゼを不可逆的に阻害し、 β -ラクタム系抗菌薬の治療効果を高める。
4. メロペネムは、腎尿細管に存在するデヒドロペプチダーゼIにより分解され、その分解物が腎毒性を引き起こす。
5. セフメタゾールは、ジスルフィラム様作用を有するので、投与期間中に飲酒すると血中アセトアルデヒド濃度が上昇しやすくなる。

解答

1, 5

解説

選択肢 1 は、正しい選択肢です。

選択肢 2,3 ですが

主語が逆になっていると考えられます。スルバクタムは、 β -ラクタマーゼ阻害薬です。合剤として用いられます。セフォタキシムは、第三世代セフェム系抗生物質です。セファロスポリナーゼ阻害薬ではありません。よって、選択肢 2,3 は誤りです。

選択肢 4 ですが

メロペネム（メロペン）は、カルバペネム系抗生物質です。特徴としてデヒドロペプチダーゼによる分解を受けにくいというものがあります。デヒドロペプチダーゼによる分解を受けという点が適切ではありません。※腎毒性を引き起こしうる、という点は正しい記述です。腎機能に応じた用量調節が行われます。

選択肢 5 は、正しい選択肢です。

以上より、正解は 1,5 です。